仕事と余暇に対する意識の分析―公共性の観点から―

東北工業大学大学院　学生会員　○荻野涼平
東北工業大学　正会員　　泊　尚志

1.背景と目的

わが国では社会問題の解決の場面において行政に依存するだけではなく，NPO やボランティア活動などといった，市民の社会活動への参加が期待されている．そのため人々が公共性に対する意識を持つことが重要であることが言える．

一方で，わが国ではワークライフバランス（以下 WLB）の重要性が強く認識されてきており，そのため余暇時間を大切にしたいと考える人が増えるのではないかと考えられる．しかし，余暇の過ごし方に対する意識は人それぞれであり，社会のために活動をすることを大切にしている人もいれば，自分の趣味に没頭することを大切にしている人もいるであろう．そして後者のような意識が公共性に対する意識の希薄化に寄与する可能性はないだろうか．仕事と余暇に対する意識の関係を公共性の観点から分析した研究は見受けられないことから，本研究では，以上の問題意識に基づいて，仕事と余暇に対する意識と公共性に対する意識の関係について分析をする．

2.既往研究の整理と仮説

職場ストレスの心理的要因として仕事の要求度とコントロール（裁量度）を尺度とした Karasek&Theorell の研究では，仕事の要求度とコントロールがともに高い人は，余暇時間においても積極的であるとされている．また，Work Engagement（仕事に対するポジティブな意識）が高い人は，休日においても学習意欲が高いこと，休日の過ごし方において地域活動が正の相関を示していることが明らかにされている [1]．また，高い自己効力感を自覚していることなども指摘されている（Demerouti）．

余暇に関する知見として，周囲とのコミュニケーションを求め，物事に対してより興味関心を示し，活動的な生活を志向している人ほど，自然環境を大切にする，社会の役に立ちたい，周囲との調和を大切にする．といった調和的思考との関連性があると確認されている [2]．また，パットナム（Putnam）は余暇時間の私事化がソーシャルキャピタルの低下の一要因であるとしている．また，テレビに代表される屋内娯楽が余暇時間の私事化の要因 [3] とされ，現在ではスマートフォンの普及により更なる余暇時間の私事化が想定される．

社会活動への参加に起因する要因として政治的有効性感覚が正の影響を与えること [4]，ソーシャルキャピタルとまちづくり意識の間には強い関係があることが明らかにされている [5]．また，地域活動に対する興味関心が参加への要因となっている [6]．

仕事に対してポジティブな意識を持っている人ほど，それ以外の時間でもより積極的，活動的であることから，社会活動にも積極的であり，また，仕事における自己効力感が政治的自己効力感の助長に繋がらないかと考え，仮説 1 を立てた．

余暇に対して他者とのコミュニケーションや積極的な活動を志向している人ほど社会貢献や周囲との調和を大切にすること，また，余暇に対してポジティブな意識を持っている人ほど余暇時間の私事化が低いと考え，仮説 2 を立てた．

仮説 1：仕事に対するポジティブな意識は公共性に対する意識に正の影響を与える．

仮説 2：余暇に対するポジティブな意識は公共性に対する意識に正の影響を与える．

また，WLB に満足している人は今のライフスタイルを変えたくないという意識が働くと想定し，社会参加に対する意識が希薄化する可能性はないか，結果，公共性に対する意識が希薄化する可能性がないかと考え仮説 3 を立てた．

仮説 3：ＷＬＢ満足は公共性に対する意識に負の影響を与える．

以下では，以上 3 つの仮説を検証する

3.調査概要

2.の 3 つの仮説を検証するため，本研究では 20 歳～65 歳の労働者を対象に意識調査を実施した．有効回答数は 673 件（人）であった．

4.調査結果と考察

キーワード　ワークライフバランス（WLB）　仕事と余暇に対する意識　公共性に対する意識
連絡先　〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35 番 1 号，電話 022-305-3533

© Japan Society of Civil Engineers

勤務形態（WLB 制度）の違いによる，公共性に対する意識の差を見るためにクロス集計を行った（図-1）.

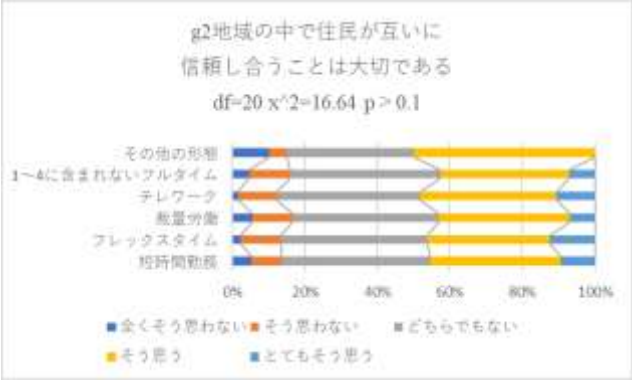

図-1「勤務形態」と「公共性に対する意識」の関係

分析結果から, WLB 制度の違いによる公共性に対する意識に有意な差は見られなかった.

これは，WLB 制度は仕事や WLB に対する制度であるため，直接関係する仕事に対するポジティブな意識と，WLB 満足に対しての影響は考えられるが，公共性に対する意識に対しては直接な関係はないためであると考えられる.

次に 3 つの仮説の検証をするために共分散構造分析を行った（図-2）.

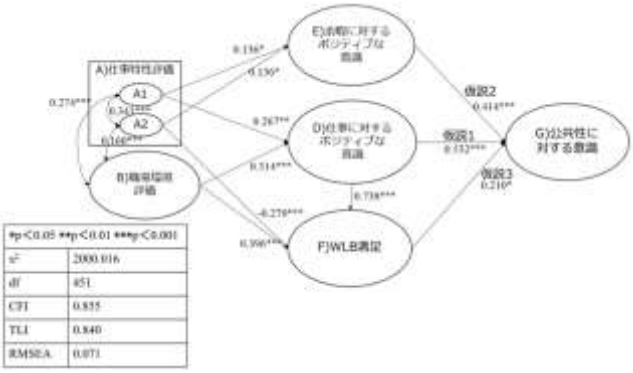

図-2 共分散構造分析・結果

分析の結果，仕事に対するポジティブな意識と余暇に対するポジティブな意識が公共性に対する意識に正の影響を与えていることが確認され，仮説 1 と仮説 2 は支持された．これらは，仕事に対してのやりがい・誇りが周りの役に立ちたい，仕事を通して社会貢献をしたいという意識を高め，また仕事に対する効力感が政治的効力感を助長させ，結果，公共性に対する意識が高まったのではないかと考えられる．また余暇に対するポジティブな意識が高い人ほど，余暇時間の使い方においても個人の時間にあてる意識が低いと考えられ，また，物事の興味関心が高いことから，地域の活動などにも興味関心が向けられることにより，公共性に対する意識も高まったのではないかと考えられる.

WLB 満足と公共性に対する意識の関係を見ると，正の影響を与えていることが確認された．そのため仮説 3 は支持されず, 反対の結果となった. WLB に満足している人は，仕事と余暇が充実している状態であると言える．そのため，仕事と余暇に対するポジティブな意識が高いと考えられるため，結果，仮説 1，2 と同様に公共性に対する意識が高まるのではないかと考えられる.

5.まとめと今後の課題

本研究では，仕事と余暇に対する意識の関係を公共性の観点から分析を行い，以下のことが明らかになった.

1. 仕事に対するポジティブな意識は公共性に対する意識に正の影響を与える.
2. 余暇に対するポジティブな意識は公共性に対する意識に正の影響を与える.
3. WLB 満足は公共性に対する意識に正の影響を与える.

今後の課題として，調査項目を再度検討すること，仮説に対して逆の因果関係の検討をすることがあげられる.

参考文献

1）小畑周介，森下高治：Work Engagement と職業性ストレスおよび余暇の過ごし方との関連，帝塚山大学心理福祉学部紀要，2011

2）榊原國城：ライフスタイルと余暇意識，愛知淑徳短期大学研究紀要，第 32 号，1993

3）古河幹夫：ソーシャルキャピタルの概念と政策的含意，長崎県立大学経済学部論集，第 46 巻第 4 号，2013

4）星敦士：社会活動への参加に対する社会階層と政治意識の影響：兵庫県の市民参加に関するアンケートより，甲南大学紀要，文学編，2012

5）谷口守，松中亮治，芝池綾：ソーシャルキャピタル形成とまちづくり意識の関連，土木計画学研究・論文集，Vol.25，no.25，2008 年 9 月

6）元吉忠寛，高尾堅司，池田三郎：地域防災活動への参加意図を規定する要因―水害被害における検討―，心理学研究，第 75 巻第 1 号

© Japan Society of Civil Engineers